

ミニポットおどり八ボタンの栽培技術

農業総合研究所

要旨

ミニポットおどり八ボタンは冬期花壇苗として需要拡大が見込まれる品目である。7月上旬に播種、鉢上げ後4週間目に摘心と3枚の摘葉を行い、肥効の短い基肥と分枝発生後の追肥により、コンパクトで均整のとれた3本分枝の株が得られる。

成果の概要

7月上旬に播種し、7月中旬に7.5cm黒ポリポットへ鉢上げ後4週間目に摘心する(図1)。

摘心時に最上位葉から3枚摘葉すると、摘葉した節の腋芽の萌芽が促進され、3本の分枝が得られる株の割合は高くなる(図2)。

摘心・摘葉時に肥効を抑えることで3本の分枝が得られる株の割合は向上するので、鉢上げ時の基肥には肥効の短い肥料(例:被覆肥料40日タイプ)を用いる。

分枝が5cm程度伸長した時(9月上旬)から、2週間に1回液肥(窒素濃度100ppm)を施用する。なお、追肥量(濃度、頻度)が多いと草姿が乱れ、バランスよく3本の分枝が得られないので、多肥に注意する(図3)。

‘初紅’、‘冬紅’、‘初夢’で、3本分枝の株の割合が高く、本栽培技術に適する(図2、図4)。

7月	8月	9月	10月	11月	12月
○	□	×	—	—	■
播種 鉢上げ	摘心・摘葉	追肥			出荷
施肥例 ・基肥(用土1リットル当たり) ロング424(40日タイプ)2g、苦土石灰3g、BMようりん1g ・追肥 鉢上げ5週間後にプロミック錠剤スタンダードタイプ小粒1粒/ポット 9月上旬以降、OKF-9の1,500倍液(窒素濃度100ppm)を2週間に1回施用					

図1 開発した作型と施肥例

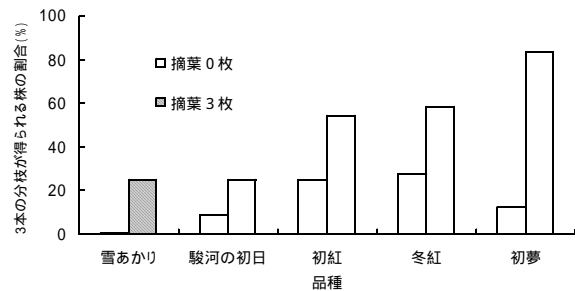


図2 摘葉の有無による3本の分枝が得られる株の割合の品種間差異 2005年7月1日播種、鉢上げ4週間後に摘心・摘葉した。

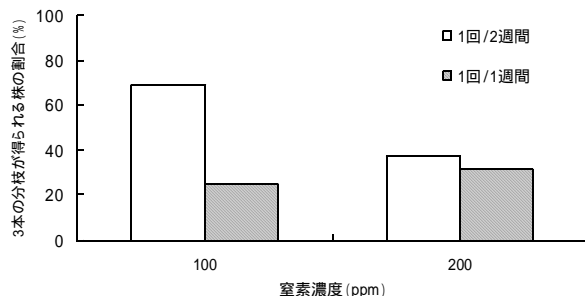


図3 追肥濃度と追肥頻度の違いが‘初紅’の草姿に及ぼす影響



図4 開発した栽培技術により得られたミニポットおどり八ボタン